

21班 都農町景観マップ

メンバー（町田奈々美、大谷悠真、兵藤晴彦、丸野くるみ、中山大陽）



図書館と道の駅つの周辺の店

都農町には都農町民図書館があり、火曜日が定休日である。実際に都農町民図書館に訪れた時に親子ずれがちらほら見られた。実際に新着図書のお知らせが逐一ある。絵本の読み聞かせを毎週土曜日と日曜日に実施したり、DVDやビデオも観ることができる場所もある。他にもホームページから本を借りれる。

道の駅のつのよりも西のほうには、多く畑であったり、生活するうえでは欠かせない店が多く見られた。具体的には、ダイソーであったり、コメリハードやAコープなどが見られた。他にも国民健康保険病院や放課後等デイサービスの施設であったりトリミング店などもある。さらには宮崎ならではの地鶏の店もある。その中でも特に湯の本は、都農町が経営している都農町墓地が見られた。都農町の方々にお話を伺ったときに都農町墓地のことを知った。道の駅を中心に都農町は賑わっていることが分かった。

（大谷）



道の駅つの

道の駅つののは宮崎県で15番目に登録された道の駅である。宮崎市と延岡市の真ん中に位置し、西に尾鈴連山、東に日向灘、また隣接する都農神社と豊かな自然と結ぶ歴史に囲まれた都農町の道の駅だ。この場所は地元農家の人たちから野菜を仕入れて販売するという地産地消の担い手としても存在している。しかし、人口減少により若者の数が減り、いつしか目的地としての役割ではなく、通過地点として機能するようになっていく。若者の来店を増やすための対策としてはSNS等を活用することが有効であると感じた。道の駅の社長さんに実際に都農町のいいところについて聞いてみると、県外から来た人にとって「売られている新鮮な野菜」や「四季がはっきりしているところ」、「気候的にも住みやすいところ」が魅力的だとおっしゃっていた。また、人口の過疎化については、「店を運営していく中でモノが集まらなくなるという不安がある」そう。ただ、この道の駅が目指すところは「目的地にならない、立ち寄ってもらうための道の駅」にしたいと語っていた。「寄ってみよう」というささやかなポイントを増やしたいと言っていた。（中山）



実習を通しての感想

今回は初めて都農町に行きました。私たちの班は五人中、三人が県外出身だったため、都農町自体を知らない人が多かったです。その中で都農町のいいところについて伺うと、「県内外から来た人にとって感じる魅力が違う」とおっしゃっていました。私にとっては、話しかけても優しく受け答えしてくれる都農町の雰囲気がとても魅力的に感じました。都農町では、特に高齢者に向けての発信について悩んでいることがあるのでそこも研究したいと思いました。（町田）

都農町に初めて行ったとき、都農町に行く前は、都農町は山や田んぼなどで覆われて、あまり盛んな街ではないだと思っていました。しかし、実際に行ってみると道の駅つのの周りは盛んで、道の駅つのは農家の方々が作った市場やJAで扱われなかった野菜を安い価格で販売したりするなど、地元の方々にもメリットがある駅なのだ分かった。道の駅つのはなくてはならないものだ改めて思った。（大谷）

都農町は自然豊かな反面、手入れが行き届いてなく草木が飛び出ている危険だと感じる場所が少なくなかった。道の駅で聞いた通り、PR力がないのではなくPRできる尖ったものがないことは深刻だと思った。人々は暖かく、気候も温暖なため、定住者を増やしていくよう促すことが地域活性化のための最優先であると感じた。（兵藤）

都農町は高齢者の方が多く、若者の力がとれてないことが課題だと感じた。SNS等を駆使して若者への発信を強め、若者の定住を促すことが大事だと考えた。また、働く場所をたくさん提供することで若者の都農町へ来るための理由を作ることでも有効的な政策であると感じた。自然の豊かさや気候的な住みやすさなどメリットも多くあるためそのような点も発信していくとよいと思う。（中山）

今回のフィールドワークで地域社会が今何をするべきなのか、明確ではないですが見えてきた気がします。私たちが考える地域創生とは少子高齢化対策や観光客の増加などですが、実際に産んでいる人に話を聞くとまずは住んでいる人たちが住みやすい町づくりに重点を置くことで、町全体の幸福度を上げることに大事だとわかりました。地域を創成することの前に、その地域の良さを私たちが知るということ前提にこれからの学習を進めていきたいと感じました。（丸野）



都農青果卸市場

都農町と川南町の農家から野菜や果物を仕入れており、仕入れに制限はかけず、どんなものでも仕入れている。都農町唯一の野菜市場であり、都農町の特産品であるトマト、キュウリ、キャベツ、ブドウを多く卸している。市場だけでなく向かいで包装、販売も行っており、訪れた際にはトマトが3つずつに包装され販売されていた。口蹄疫により畜産をやめ農家になった人が多数いるそう。道の駅も川南町のものを販売しており川南との強い連携があり、経済の活性化にもつながると感じた。（兵頭）

道の駅（植物の販売）

道の駅の前で独自で栽培し、オリジナルの品種を販売している松浦徳光さんに話を聞いた。松浦さんは大通りで「癒やし工房苔玉」を営んでいるそう。それに加えシーガイアのヤシの木や県庁のクスノキの植栽をボランティアで行っている。また、「口蹄疫」により殺処分された30万頭以上の牛や豚を追悼するために鎮魂の花園を友人たちとボランティアでしている。

ちなみに、松浦さんは「くるから村」というYoutubeもしている。

口蹄疫（こうていえき）は、口蹄疫ウイルスによって引き起こされる偶蹄類（牛、豚、羊、山羊など）の伝染病である。観戦した動物は高熱や口内・蹄の潰瘍を示し、非常に強い感染力を持っています。死亡率は低いものの、感染が広がると大きな**経済的損失**をもたらすため、迅速な防疫措置が必要になる。特に、2010年の日本では292農場で焼く21万頭が感染し、約2350億円の被害が出た。（町田）



南国プリン 都農研究所

まず**南国プリン**とは…？

・松浦牧場の低温殺菌ノンホモ牛牛乳
→濃厚なのにずっと消える

・卵

→栃木県のミラクルエッグを利用

・天然のバニラビーンズのみを使用

・季節の果物

→原材料からこだわり、絶対的なおいしさを確立

・ターゲットを若者に絞る

←県内の高校生にアイディアをもらいグッズも開発・発売

・高齢者に対しては御中元前に

新聞で広告を出したり、

イベントで試食を行い、口や目に触れる機会を増やしている

（丸野）

←県内の高校生（商業高校）とのコラボによる商品開発・販売

